

ユーザーガイド



ADI-2 Remote

ADI-2 シリーズ用コントロール・ソフトウェア



目次

1. はじめに	4
2. 動作環境	4
3. ソフトウェアのインストール	5
4. インストール完了後：はじめに - バックアップの実行	6
5. 概要	6
6. クイック・ガイド	8
7. アプリ・メニュー	10
7.1 File - Load Factory – EQ Examples	10
7.2 Options - Settings	12
7.3 Enter Full Screen Mode	13
7.4 Window - Zoom 100%	13
7.5 Window - Show Status Window	13
8. ページ	15
8.1 LINE IN (ADI-2 Pro、ADI-2/4 Pro)	15
8.1.1 一般	15
8.1.2 Parametric (パラメトリック) EQ	15
8.1.3 ADVANCED SETTIINGS (詳細設定)	16
8.2 LINE OUT (全デバイス)	17
8.2.1 一般	17
8.2.2 Parametric EQ (パラメトリック・イコライザー)	18
8.2.3 ADVANCED SETTIINGS (詳細設定)	20
8.3 PH 1/2、3/4、IEM	21
8.4 DEVICE	21
8.4.1 DEVICE MODE	21
8.4.2 PHONES	22
8.4.3 CLOCK SETTINGS (クロック設定)	23
8.4.4 HARDWARE	23
8.4.5 DISPLAY (ディスプレイ)	24
8.4.6 SETUPS	25
8.5 EQ PRESETS (PEQ エディター)	26
8.5.1 EQ PRESET EDITOR (EQ プリセット・エディター)	26
8.5.2 EQ PRESETS (EQ プリセット)	26
9. 追補	28

1. はじめに

2016 年、真のマイルストーンである RME ADI-2 Pro が発売されました。その後 ADI-2 DAC、ADI-2 Pro AE（アニバーサリー・エディション）、ADI-2 Pro FS、ADI-2 Pro FS R BE、そして最新の ADI-2/4 Pro SE と続く ADI-2 シリーズが発表され、プロフェッショナルな機能性に使いやすさと柔軟性を組み合わせたこれらの製品は、ホーム・オーディオおよびハイファイ・オーディオ市場で高い評価を獲得しました。

初代の発売から長い年月が経過した今、私たちは皆様がより便利に、そして長期的に ADI-2 シリーズをお使いいただけるよう、新たなソリューションを提供しています。2023 年にリリースされた ADI-2 Remote（macOS、Windows、iPadOS 対応）は、無償提供されるだけでなく、2016 年に発売された初代 ADI-2 Pro を含むすべての ADI-2 シリーズでお使いいただけます。*

* オリジナルの ADI-2（再生終了品）は、ADI-2 Remote では使用できません（AD/DA コンバーターに USB および DSP が搭載されていないため）。

ADI-2 Remote ソフトウェアは、以下のリンクからダウンロードできます。

macOS / Windows : <https://rme-audio.jp/product/rme/adi-2-remote/>

iPadOS : Apple App Store から入手可能。

ファームウェアのアップデートや、お使いのコンピューターに適したドライバーについては、本ユーザー・ガイドのシステム要件をご参照ください。

ノート : ADI-2 Remote で使用される MIDI プロトコルは、Excel 文書としてダウンロードできます : https://www.rme-audio.de/downloads/adi2remote_midi_protocol.zip

2. 動作環境

ファームウェア

ソフトウェアが ADI-2 デバイスと適切に通信し、すべての機能をサポートするには、お使いの ADI-2 シリーズを最新のファームウェアにアップデートする必要があります。

ADI-2 DAC : USB 81、DSP 61

ADI-2 Pro : USB 267、DSP 127

ADI-2/4 Pro SE（ハードウェア Rev 6）: USB 72、DSP 39

ADI-2/4 Pro SE（ハードウェア Rev.7）: USB 209、DSP 39

最新のファームウェアは FUT（ファームウェア・アップデート・ツール）として提供されます。以下のページからダウンロード可能です。

<https://rme-audio.jp/download/>

ノート : Windows 環境でファームウェアをアップデートするには、MADIface シリーズ・ドライバーのインストールが必要です。詳細は、お使いの ADI-2 デバイスのマニュアルをご参照ください。

各 OS の注意事項

Windows

ADI-2 Remote は、DigiCheck NG と同じグラフィック・エンジンを使用しています。そのためシステム要件も同一です（Windows 10 以降、および Direct3D 12 対応のグラフィック・カード）。これにより、Windows 10 を実行している場合でも、Intel 内蔵グラフィックスの HD4600 や HD4000 を搭載した一部の古いコンピュータでは使用できない場合があります。

Direct3D および対応グラフィック・カードの概要は、以下をご参照ください。

https://en.wikipedia.org/wiki/Feature_levels_in_Direct3D

iPadOS

iOS 12.4 以上に対応します。そのため、初代 iPad Air およびそれ以降の（より新しい）すべての iPad、または iPad Pro で使用できます。

macOS

ADI-2 Remote はグラフィック処理に Metal を使用するため、macOS 10.11 より前の OS では動作しません。macOS 10.11 をご利用の場合、この OS を実行しているすべての Mac が Metal に対応しているわけではないため、動作するかどうかはハードウェアに依存します。詳細は以下をご参照ください。

<https://support.apple.com/en-us/HT205073>

接続

ADI-2 Remote は、USB MIDI ポート経由でハードウェア・デバイスと通信します。接続方法は通常と同様で、USB2.0 経由で Windows または Mac コンピューター、iPad に接続します。

接続が適切に行われ、ファームウェアや OS が最新であるにも関わらず、アプリのタイトルに *Disconnected* と表示される場合は、*MIDI Control* オプション（ADI-2 Pro および ADI-2/4 Pro では *Device Mode* メニュー、ADI-2 DAC では *Remap Keys/Diag* メニュー）が ON に設定されているかをご確認ください。

3. ソフトウェアのインストール

アプリにはインストーラーが付属します。解凍したファイルに含まれるインストーラーをダブルクリックすると起動します。

4. インストール完了後：はじめに - バックアップの実行

デバイス上の現在の設定が変更されたり失われる事を防ぐため、この手順は必ず行ってください。以下の手順に従ってバックアップを行います。

アプリをインストール後、まず ADI-2 デバイスを接続して、アプリの起動だけを行います。

ノート：ADI-2 Remote は、画面上のノブやボタンに触れたり設定を変更しない限り、**本体のパラメーターを一切変更しません**。それ以外の場合は、**機器の現在のステータスを取得すること**しかしません。

次に、**File メニュー > Save Setup as ...** を選択します。これにより、ADI-2 デバイスの 20 個の PEQ プリセットすべてを含む現在のステータス (Setup) が Setup ファイル (拡張子 .adistp) に保存されます。このファイルは必要な時にいつでもロードできます。これでもう安心です！ ADI-2 Remote を使って何を変更しても、同じく **File メニュー > Open Setup file** からセットアップ・ファイルをロードすることで、簡単に元に戻すことができます。

追加の手順

本体に複数のセットアップを保存している場合は、それぞれのセットアップをロードした後に、上記と同じ手順でこれらすべてを個別のファイルとして保存することができます：

アプリの **Device** ページで、**Load** をクリックしてから **Setup 1** をクリックします。これは本体のメニューから **Setup 1** をロードするのと同じ動作です。ここで、現在のステータスをファイルとして保存します。セットアップが複数ある場合は、設定したすべてのセットアップで同じ手順を繰り返します。

本マニュアル執筆時点では、「すべてのセットアップを含むグローバル・ステータス」を保存する機能はありません。設定済みの複数のセットアップを保存するには、1 つずつ順番に上記の手順を繰り返し保存する必要があります。

それでは、ADI-2 Remote をお楽しみください！

5. 概要

ADI-2 Remote は主にデバイスのステータスを読み取り、本体や MRC で同じ操作を行う時のようにデバイスをコントロールします。例外となるのは、**Limit volume rise speed** (ボリューム上昇速度の制限)、**Recall** (リコール)、**Limit Volume** (リミット・ボリューム)、および **Link** (リンク) です。

Link (リンク機能)

デバイス本体には、2 つの出力を同時にコントロールできる特別な機能 **Dual Volume** モードを備えます。ADI-2 Remote では、この機能の代わりに **Link** 機能を使うことで、任意の出力のボリューム設定をアプリから同時にコントロールできます。

本体側で **Dual Volume** モードを有効にすることも可能ですが、その場合、アプリは両方のチャンネルではなく一度に 1 つのチャンネルしかコントロールしません (同じチャンネルで Link が有効になっていない限り)。

Link 機能のステータスは、アプリ再起動時に復元されます。ボリューム値は復元されませんが、ADI-2 Remote アプリは現在の設定値を常に本体から読み込むため、シャットダウンや再起動後も適切に使用することができます。

ページ

アプリは、いくつかのメイン・ページで構成されます。

- ▶ **Line Input (ADI-2 Pro および ADI-2/4 Pro のみ)**
- ▶ **Line Out、Phones Out、IEM Out (ADI-2 DAC)、Phones Out1/2 および Phones Out 3/4 (ADI-2 Pro、ADI-2/4 Pro)**
- ▶ **DEVICE ページ**：入出力チャンネル以外の一般設定
- ▶ **PEQ エディター**：現在アクティブな EQ 設定を変更せずに PEQ の編集、保存、読み込みが可能（音楽を聴きながら操作できます）。

アプリは本体と完全に同期しています。本体またはアプリでボリュームを変更すると、両方の値が同期して変更されます。トグル・モード有効時に **Toggle** をクリックすると、それに応じて現在のチャンネル・ページが変更されます。**Mute v. xx** 有効時にヘッドフォンを抜き差しした場合も同様です。

アプリが機器を認識できなかった場合は、デモ・モードが起動し、**ADI-2/4 Pro** の画面が表示されます。誰でもアプリを試すことができる機能です。

実のところ、PEQ エディターを使用すれば、オフラインであっても PEQ の作成や編集、ディスクへ（から）の保存や読み込みが行えます。

アプリ自体には、アプリのメニューから直接利用できる 2 つの設定があります。1 つは、表示される出力ページの自動切り替えを無効にする設定です。もう 1 つは、Setup ファイルを介して最大 20 個の PEQ を同時に本体に読み込むことを有効にする設定です。この読み込み機能は機器のステータスを別の機器に素早くコピーする場合などに活用できますが、通常は特定のスロットに任意の PEQ 設定のみを読み込む場面が多いことから、初期設定ではオフに設定されています。

State Overview ウィンドウ

ADI-2 シリーズは非常に機能が豊富であるため、デバイスの現在のステータスが分かりにくくなる場合があります。このような時に役立つのが「State Overview」ウィンドウ（F6 キー、または右上の「SOV」ボタンから表示）です。このウィンドウには、デバイスの現在のステータスや、すべての入力および出力が、明確かつ非常に詳細に表示されます。

Help

アプリはご覧いただくだけですぐに使い方が理解できる様に作られており、ヘルプ・メニューも付属しています（英語およびドイツ語）。

6. クイック・ガイド

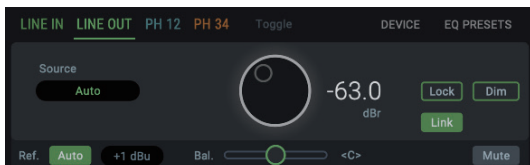
ADI-2 Remote は、シンプルで直感的に使用できるアプリです。各ページに表示される項目は、本体と比べてわずかな違いしかありません。もちろん ADI-2 DAC には ADI-2 Pro や ADI-2 2/4 Pro が備えるハードウェア入力や、録音時に入力信号に適用する EQ は搭載されていません。デモ・モードでは、ADI-2 DAC ユーザーでもこれらの機能を確認することができます。

また、ADI-2/4 Pro はデジタル RIAA モードも備えており、ライン入力の手前に外部フォノ・プリアンプを使用する必要がなくなるため、レコード・コレクションを最高音質でアーカイブしたいとお考えの場合には究極の選択肢となります。

ページ選択

画面最上部には、入力 (ADI-2 DAC には非搭載) および出力に関する設定ページを選択するためのタブがあります。例えば **Phones 3/4 出力 (PH 3/4)** など、設定を変更したい出力のタブをクリックすると、該当ページに切り替えることができます。

次にあるのは、**Source** (ソース) 選択とボリューム・コントロールです。ソースは **Auto** に設定したままでも構いません。ボリュームのロック (**Lock**) やディム (**Dim**、一時的に出力レベルを下げる機能。再生中に電話が来た時などに利用できます)、左右バランス (**Bal.**) やミュート (**Mute**) スイッチを操作することも可能です。



パラメトリック・イコライザー

次は EQ セクションの説明です。ADI-2 シリーズは、お使いのヘッドフォンに合わせて EQ カーブを調整できる機能を備え、多くのヘッドフォン・ユーザーに愛用されています ([RME のビデオをご参照ください](#))。ADI-2 Remote では、この機能を Mac や PC から直接操作できるようになりました！

EQ のオン / オフ・スイッチの下側にはパラメトリック・イコライザーのカーブが視覚的に表示されており、5 バンドおよびベース / トレブルのコントロールが行えます。

EQ を使用した事がある方にはお馴染みかも知れませんが、簡単に使い方を紹介します。

単一のバンド (例: Band 1) を見ると、縦に 3 つ重なったエンコーダーがあることが分かります。一番上はゲイン・コントロールであり、選択したバンドのレベルをカット / ブーストが行えます (値が 0 の場合ゲインは適用されません)。



上から 2 番目のエンコーダーは、ターゲット周波数（20 Hz ～ 20 kHz）、3 番目のエンコーダーは Q 値（カーブの形状）を調整します。

EQ 処理に決まったルールはありませんが、一般的に Q 値が大きい（カーブが狭い）処理はカット、Q 値が小さい（カーブが広い）処理はブーストに適しており、より自然なサウンドが得られると言われています。

一番右と一番左のエンコーダー列は、ベースとトレブルです。これらのバンドはカーブが固定（シェリング EQ）されており、カットオフ周波数と Q 値を調整できます。

Dual（デュアル）ボタン

EQ セクションの右側には、Dual（デュアル）ボタンがあります。ADI-2 デバイスは、左右チャンネルに対し EQ を個別に適用できるのが特徴です。片耳が聞こえにくい方や、本体をスピーカーに接続する際に室内音響に合わせて補正を行いたい場合に便利な機能です。このボタンを押すと、左右チャンネルに異なる EQ カーブを適用することができます。

EQ 設定の保存

EQ セクションの設定は、プリセットとして保存することができます。Store ボタンを押してプリセット名を指定します。保存先は、ハード・ドライブや ADI-2 シリーズの内蔵メモリー・スロットを選択できます。

ADVANCED SETTINGS（詳細設定）- Width、Crossfeed、フィルター設定

次は、ADVANCED SETTINGS と書かれたセクションの説明です。ここでは、ステレオ幅（ステレオ～モノラル～チャンネル反転）およびクロスフィードの調整が行えます。

クロスフィードとは？

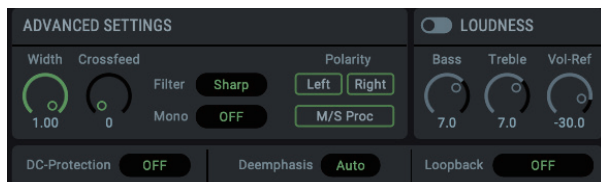
クロスフィードとは、左または右チャンネルの信号を、他方のチャンネルに僅かに送る処理のことを指します。ヘッドフォンは、左右の耳に個別にサウンドを届けますが、現実の世界では人間は両耳で音を認識します（各耳に同じ音が届く際に遅延が生じますが、これは音がどこからやって来たのかを認識するのに役立っています）。

したがって、クロスフィードは、片方のチャンネルに対し、もう片方のチャンネルの信号を僅かに送ることで、実際のリスニング体験（スピーカー・リスニングやバンドのライブ演奏）をエミュレートする機能です。使用する音源によって効果の程度は変わりますが、一部の音楽には非常に効果があります。試す価値はあるでしょう。

本セクションでは、フィルター設定も行えます。使用するフィルター・タイプ（SD Sharp や NOS など）の選択が可能です。位相の反転も行えます。スピーカーの位相ずれを確認したり、音楽制作で位相の問題をチェックする場合などに便利な機能です。また M/S（Mid/Side）モードのオン / オフも本セクションで行えます。

LOUDNESS (ラウドネス)

LOUDNESS セクションでは、古い HiFi アンプでお馴染みの機能を利用できます。この賢い機能は、音量の変化に応じてトレブルとベースを調整し、音量レベルに関係なく、より一貫したリスニング体験を提供します。



ADI-2 のほとんどの機能と同様に、トレブルとベースはユーザーが調整可能であるため、これらを微調整して完璧な設定を見つけることができます。

DC-Protection (DC 保護)、De-emphasis (デエンファシス)、Loopback (ループバック)

最後に、DC-Protection フィルターのスイッチと、De-emphasis コントロール（一部のデジタル素材の高域を追加または削除できるようにする機能です – 詳細は ADI-2 本体のマニュアルに記載されています）、そして処理された再生信号を録音したり、RME の DIGICheck ソフトウェアで使ったりできるようにする Loopback コントロールがあります。

ADI-2 Remote の簡単な説明は以上です。詳しい使い方は、次ページ以降の解説をお読みください。さらに詳しい情報を知りたい場合は、お使いの ADI-2 シリーズに付属するユーザー・ガイドをご参照ください。

7. アプリ・メニュー

メニューおよびオプションは、macOS、Windows、iPadOS によって異なります。

7.1 File - Load Factory – EQ Examples

このコマンドを選択すると、アプリ内の PEQ エディター・ページの EQ プリセットに 18 の PEQ プリセットが読み込まれます（本体には読み込まれません!）。Preferences 画面の *Store file-loaded EQ-Presets into Device* が有効のときにこのコマンドを実行すると、本体のすべての PEQ 設定が上書きされます。ご注意ください（事前にバックアップを保存しておけば、誤って設定を上書きしてしまった場合も安心です。詳細は、《4. インストール完了後：はじめに - バックアップの実行》をご参照ください）。

これらの EQ プリセットには、良くあるイコライジング設定例や、その他の面白い使い方が含まれています。以下は各プリセットの概要です。

1.	名前の通りですが、万人が気持ち良いと感じるかは不明です。	Feel Good
2.	サブベースをブーストします。イヤホンに最適です。ピーク・フィルターを意図的に用いて、可聴範囲外の超低周波数帯域を抑えています。	ProPhile 8
3.	Oratory1990 による Sennheiser HD650 用カーブ	HD650
4.	Audeze LCD-X 用補正カーブ	LCD-X
5.	Sennheiser HD800S 用補正カーブ	HD800S
6.	Oratory1990 による HEDD Heddphephone 用カーブ	Heddphephone
7~10.	RME フォーラムに掲載された DAC フィルター用補正カーブ	JVC HA-SZ2000
11.	不正なデジタル矩形波を、帯域制限のある有効な矩形波に変換します。	Sony MDR-Z7M2
12.	その名の通り、左右チャンネルで異なるカーブを適用します。	Slow Comp 44.
13/14.	ADI-2 シリーズのマニュアル記載のカーブ。詳細はお使いの機器のユーザー・マニュアルをご参照ください。	Slow Comp 48
15.	ターンテーブル用の非常に効果的なランブル・フィルター (ADI-2/4 Pro 本体のプリセット 22 と同等)	LoPass Square
16/17.	サブウーファーを使用する際、サブウーファーの中高域、またはサテライト・スピーカーの低域をカットする必要がある場合に使用します。各プリセットは、同じクロスオーバー周波数で設定されています (個別に調整も可能)。	Dual EQ Test
18.	聴覚テスト用プリセット。バンド 5 (ハイカット) をリアルタイムで変更すると、再生音が聴感上変化する周波数を特定できます。カット周波数が 12 kHz を下回っても再生音が変化しないと感じた場合でも問題ありません。FM ラジオ (ドイツでは UKW) は、オーディオ帯域幅が通常 15 kHz に制限されています。バンド 4 には、19 kHz にノッチがある有名な MPX フィルターも備えています。	Pre-Emphasis
19/20.	敢えて空のプリセットを用意しています。変更した PEQ を保存したり、プリセットの順番を変更したい場合に便利です。スロットを上書きする場合は、内容を失わないように、まず空のスロットにコピーすると良いでしょう。	De-Emphasis
		Rumble Filter
		Sub Low Pass
		Sat High Pass
		FM Tuner

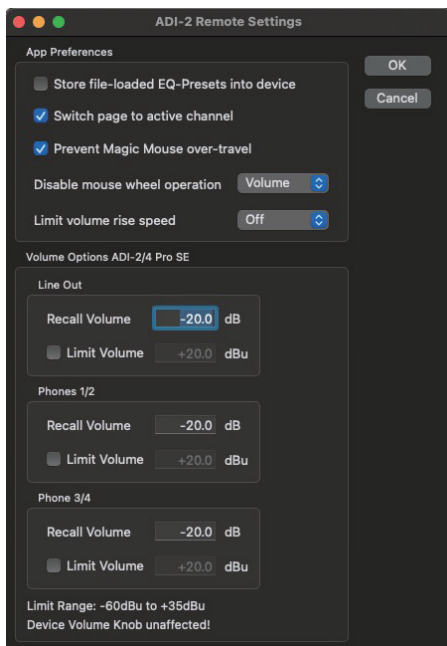
7.2 Options - Settings

F2 キー経由で呼び出すことも可能です。この項目は、以下のオプションが含まれる ADI-2 Remote Settings ウィンドウを開きます。

App Preferences

以下の設定はアプリ自体に影響を与えるため、すべてのデバイスおよびウィンドウに適用されます。

- **Switch page to active channel**：初期設定は On。ヘッドフォンの切り替えや接続を行った際に、表示される出力ページの自動切り替えを有効にします。
- **Store file-loaded EQ-Presets into device**：初期設定は Off。Setup ファイルを介して最大 20 個の PEQ を同時に本体に読み込むことを有効にする設定です。この読み込み機能は機器のステータスを別の機器に素早くコピーする場合などに活用できますが、通常は特定のスロットに任意の PEQ 設定のみを読み込む場面が多いことから、初期設定ではオフに設定されています。
- **Prevent MagicMouse over-travel (only macOS)**：初期設定は On。MagicMouse やその他のポインティング・デバイスのオーバートラベルを無効にします。



- **Disable Mouse wheel operation**：Off、Volume、All Controls から選択可能。アプリのボリュームまたはすべてのロータリー・コントロールでマウス・ホイールを使用する際の、意図しない変更を防ぎます。
- **Limit volume rise speed**：デフォルトは Off。アプリ（デバイスではなく）のボリューム・ボタンを調整する際のボリューム上昇速度を、リアルタイム（Off）から遅くする（選択肢：20 dB/s、10 dB/s、5 dB/s）ことができます。ボリュームの上昇は、マウスのボタンを離れた瞬間に停止します。

ボリューム・ノブの位置は、到達可能な最終値を示します。数値ディスプレイは実際のボリューム設定を表示します（すなわち、ゆっくりと増加します）。

ボリューム値の減少は遅くなりません。

Volume Options ADI-2 XXX

これらのオプションはデバイス固有のものです。つまり、名称の記載があるデバイスにのみ適用され、そのデバイスのすべてのアナログ出力に対して個別に利用可能です。

- **Recall Volume**：出力ページの Recall ボタンによって有効になる、ユーザー定義のボリューム値です。
- **Limit Volume**：最大ボリューム値を設定する機能です。dBu 単位で +35 dBu から -60 dBu の範囲で設定可能です。dBu 値は State Overview ウィンドウで読み取ることができます。アプリで設定した最大ボリューム値以上にしようとすると、ボリューム・ボタンに「Limit reached!」というメッセージが表示されます。

7.3 Enter Full Screen Mode

フルスクリーン・モードを有効にします。

7.4 Window - Zoom 100%

ウィンドウサイズをデフォルトの状態に設定します。

7.5 Window - Show Status Window

F6 キー経由でも呼び出せるステータス・ウィンドウは、デバイス上の State Overview ディスプレイをより包括的かつ詳細にしたバージョンです。ウィンドウは 3 つのエリアに分かれています：

Main Device State

現在の Basic Mode、Clock Source、および Sample Rate を表示します。

Digital Input State

すべてのデジタル入力の状態を表示します。Sync、サンプル・レート、ステータス（フォーマット / チャンネル数）、有効なビット数、SRC がアクティブかどうかが表示されます。エラー・ステータスは赤色で表示されます。Non-audio（非オーディオ）やエンファシスの警告、パスしたビット・テスト（Bit test passed）なども表示されます。

Output State

Output State には有用な情報が詰まっています。ここには、各アナログ出力の完全なシグナル・パスとステータスが明確に表示されます。次の情報が表示されます：

State Overview ADI-2 Pro (53010439)

MAIN DEVICE STATE

Basic Mode

Clock Source

Sample Rate

USB

Internal

44.1k

DIGITAL INPUT STATE

Input

Sync

SR

State

Bits

SRC

SPDIF opt.

--

--

--

--

--

AES

lock

192k

prof.

24

active

USB

conn.

44.1k

2/2

OUTPUT STATE

dBFS

dBu

Output

State

Source

Reference

Volume

DSP Functions

Line XLR

Off

USB 1/2

+4 dBu

-31.5 dB

Br

Line TRS

Off

USB 1/2

+4 dBu

-31.5 dB

Br

Ph. bal. Left

On

USB 1/2

Hi-Power

-24.5 dB

EQ+BT+LD

Ph. bal. Right

On

USB 1/2

Hi-Power

-24.5 dB

EQ+BT+LD

DIGITAL OUTPUT STATE

Output

State

Source

SR

Volume

AES

Off

USB 1/2

44.1k

0.0 dB

SPDIF

Off

USB 1/2

44.1k

0.0 dB

ADAT

Off

USB 1/2

44.1k

0.0 dB

- **Status** : On、Off、plugged、unplugged、Balanced、Rear TRS 3/4、DC warnings。
- **Source** : USB 1/2、USB 3/4、Analog、AES、SPDIF optical、SPDIF coaxial。
- **Reference** : +13 dBu のような現在のリファレンス・レベル、および Phones の Lo- または Hi-Power、IEM。
- **Volume** : 現在設定されている dB 単位のボリューム値。上部のボタンを使用することで、現在のモードとは独立して、表示を dBu および dBr に切り替えることができます。ここでの dBu 設定は、Limit Volume オプションの値を読み取るためにも使用できます。I
- **DSP Functions** : それぞれの出力で有効になっている DSP FX をリスト表示します: PEQ (EQ)、Bass/Treble (BT)、Loudness (LD)、および Crossfeed (CF)。

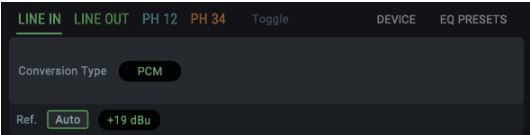
Digital Output State

Output State をご参照ください。デジタル出力は通常、ボリュームが 0 dB で、DSP エフェクトはありません。「Digital Out Source - Main Out」がアクティブな場合、表は Line 出力のステータスを反映します。

8. ページ

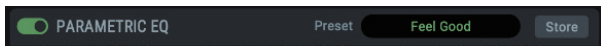
8.1 LINE IN (ADI-2 Pro、ADI-2/4 Pro)

8.1.1 一般

- **Conversion Type** : PCM または DSD。初期設定: PCM。DSD モードは、176.4 kHz 未満のサンプル・レートでは有効になりません。DSD レートは、設定中のサンプル・レートによって変化します (Device – Clock Settings – Sample Rate)。
- **Ref. Auto** : ON または OFF。初期設定 : OFF。オーバーロードすると基準レベルが 1 つ上のレベルに自動で切り替わる機能です。基準レベルが最大値 +24 dBu に達するまでこの動作が繰り返されます。Trim Gain が有効の場合は、最初に 0 dB にセットされます。RIAA モードでは使用できません。
- **Ref Level** : アナログ入力 1/2 の基準レベルを設定します。デジタル・フル・スケール・レベル (0 dBFS) を基準とした +1 dBu*、+7 dBu*、+13 dBu、+19 dBu、+24 dBu (*ADI-2/4 Pro の場合の選択肢) の中から選択可能です。

8.1.2 Parametric (パラメトリック) EQ

ON または OFF。初期設定 : OFF。PEQ 設定の詳細は、



《8.2.2 Parametric EQ (パラメトリック・イコライザー)》も併せてご参照ください。

Preset

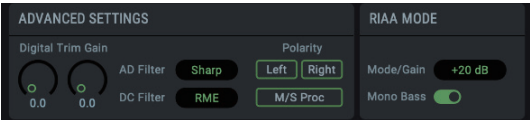
最大 22 の EQ プリセットの保存と読み込みを行います。未保存の設定は、最初の選択肢である **Manual** は、現在の未保存の EQ 設定を保持します。2 番目の選択肢である **Temp** は、読み込まれた後に変更された Preset の設定を保持します。これにより、現在の設定 (**Manual**)、プリセットから変更した設定 (**Temp**)、保存済みのプリセット、の 3 種類の EQ 設定を同時に扱うことができ、プリセットの切り替え / 比較が簡単に可能です。

Preset 21 の **Clear** は、すべてのバンドが 0 dB に設定された工場出荷時の初期設定です。EQ 設定をリセットするために使用するプリセットで、上書きはできません。このプリセットを用いて EQ 設定をリセットすると、空になったプリセットには (**lin**) という表示が付きます。

ADI-2/4 Pro には、ターンテーブル用のランブル・フィルターである **Rumble** が Preset 22 として備わっています。

EQ Presets はデバイス上の Setups とは独立しており、一緒には保存されません。アプリを使用する場合、Setup ファイルには 20 個の PEQ Presets すべてが含まれます。読み込み時、現在の EQ 設定はメモリー・スロットの **Manual** に書き込まれます。

8.1.3 ADVANCED SETTINGS (詳細設定)

- **Digital Trim Gain** : 入力信号のデジタル・ゲインを 0 ～ 6 dB の範囲内で 0.5 dB 単位で調整します。主に入力感度の微調整に使用します。*Trim Gain* を用いることで外部機器の出力基準レベルに正確にマッチさせることが可能になります。
- 
- **AD Filter** : Short Delay Sharp、Short Delay Slow、Sharp、Slow。アナログ - デジタル変換で使用するフィルターを 4 種類から選択できます。初期設定の Sharp は最も位相歪が少なく、広範囲でリニアな周波数特性を持つフィルターです。Slow は高域周波数帯が小さく落ち込みつつも、より傾きが緩やかなカーブを特徴とします。SD Sharp と SD Slow も同様の特性を持ちますが、いずれも遅延が比較的小さいミニマム・フェーズ・フィルターです。
 - **DC Filter** : RME (初期設定)、None。RME は、最小の位相誤差を持つ FPGA 内の < 0.1 Hz のフィルターです。RIAA モードでは、このフィルターは常に有効になります。
EX のみ : ADC は DSD モードでも利用可能なフィルターです。
 - **Polarity** : 対応するチャンネルの位相を 180 度反転させます。
 - **M/S-Proc** : M/S 処理が有効になります。モノラル成分 (M) が左チャンネルから、ステレオ成分 (S) が右チャンネルから出力されます。
 - **RIAA Mode** : OFF、+14 dB、+20 dB、+26 dB、+32 dB、+38 dB。初期設定 : OFF。ゲイン選択可能な RIAA プリアンプ / イコライザーを有効にします。ムービング・マグネット (MM) カートリッジを備えるターンテーブルを ADI-2/4 Pro に直接接続する場合の設定です。
 - **RIAA Mono Bass** : OFF、Mono。初期設定 : OFF。Mono は 150 Hz 以下の低域成分をモノラル化します。

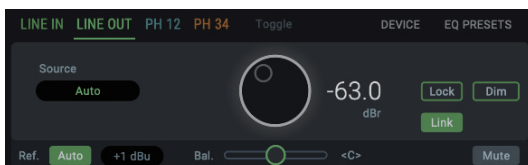
8.2 LINE OUT (全デバイス)

8.2.1 一般

- **Source** : Line Output 1/2 の信号ソースは現在のデバイス・モードに応じて自動的に設定されます。

- ▶ **Preamp モード** : アナログ入力 1/2
- ▶ **USB** : 再生チャンネル 1/2
- ▶ **Dig Thru モード** : 選択されたデジタル入力信号
- ▶ **AD/DA コンバーター** : 選択されたデジタル入力信号
- ▶ **DAC モード** : 選択されたデジタル信号およびクロック

通常は AD/DA 変換のソースをここから選択することはできません。ただし AD/DA モードおよび DAC モードが選択されている場合のみ、Auto、SPDIF、AES、Analog からソースを選択できます。これにより、接続中のすべてのデジタル入力信号を変換ソースとして選択し、出力 1/2 に送信できます。

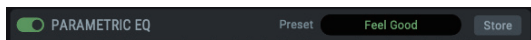


- **Volume** : **VOLUME** ノブまたはエンコーダー 1 で設定できるボリューム値が反映されます。出力レベルは -96 dB ~ +6 dB の範囲内を 0.5 dB ステップで調整可能です。
- **Lock Volume** : **VOLUME** ノブによるボリューム変更を無効にします。
- **Dim** : 出力レベルを現在値から 20 dB 下げます。
- **Link** : すべての出力ボリューム設定をリンクします。本体での Dual Volume 設定と似ていますが、異なる機能です。
- **Ref. Auto** : ON、OFF。初期設定 : ON。
- **Ref Level** : アナログ出力 1/2 の基準レベルを設定します。デジタル・フル・スケール・レベル (0 dBFS) を基準とした +1 dBu、+7 dBu、+13 dBu、+19 dBu、+24 dBu の中から選択可能です。
- **Balance** : **VOL** 画面のバランス設定が反映されます。L100 (左) ~ <C> (センター) ~ R100 (右)。
- **Mute** : 出力をミュートします。

8.2.2 Parametric EQ (パラメトリック・イコライザー)

■ EQ Enable (EQ オン / オフ) :

ON、OFF。初期設定 : OFF。



Preset

最大 22 の EQ プリセットの保存と読み込みを行います。未保存の設定は、最初の選択肢である **Manual** は、現在の未保存の EQ 設定を保持します。2 番目の選択肢である **Temp** は、読み込まれた後に変更された Preset の設定を保持します。これにより、現在の設定 (**Manual**)、プリセットから変更した設定 (**Temp**)、保存済みのプリセット、の 3 種類の EQ 設定を同時に扱うことができ、プリセットの切り替え / 比較が簡単に可能です。

Preset 21 の **Clear** は、すべてのバンドが 0 dB に設定された工場出荷時の初期設定です。EQ 設定をリセットするために使用するプリセットで、上書きはできません。このプリセットを用いて EQ 設定をリセットすると、空になったプリセットには (**lin**) という表示が付きます。

ADI-2/4 Pro には、ターンテーブル用のランブル・フィルターである **Rumble** が Preset 22 として備わっています。

EQ Presets はデバイス上の Setups とは独立しており、一緒に保存されません。アプリを使用する場合、Setup ファイルには 20 個の PEQ Presets すべてが含まれます。読み込み時、現在の EQ 設定はメモリー・スロットの **Manual** に書き込まれます。

Manual (last dialed)
Temp (changed Preset)
Feel Good
ProPhile 8
HD650
LCD-X
HD800S
Hedphone
JVC HA-SZ2000
Sony MDR-Z7M2
Slow Comp 44.
Slow Comp 48
LoPass Square
Dual EQ Test
Pre-Emphasis
De-Emphasis
Rumble Filter
Sub Low Pass
Sat High Pass
FM Tuner
12345678901234
1234567890123C
Clear
Rumble

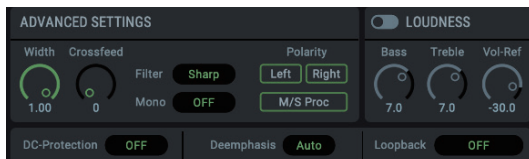
- **Store** : 現在の PEQ 設定をファイルまたはデバイスに保存するダイアログが開きます。
- **Bass Gain** : 選択されたチャンネルの現在の Bass ゲイン値 (エンコーダー 1 (B) で変更)。
-12 dB ~ +12 dB の範囲内を 0.5 dB 単位で調整します。
- **Bass Freq (周波数)** : 低域シェリング・フィルターのコーナー周波数。20 Hz ~ 150 Hz の範囲内を 1Hz 単位で調整します。
初期設定 : 85 Hz。
- **Bass Q (Q 値)** : フィルターの Q 値を 0.5 (広い) ~ 1.5 (狭い) の範囲内で調整します。初期設定 : 0.9。



- **Band 1-5 Gain** : バンド 1 ～ 5 のゲインを -12 dB ～ +12 dB の範囲内で 0.5 dB 単位で設定します。
- **Band 1-5 Frequency** : バンド 1 ～ 5 の周波数を 20 Hz (バンド 4/5 は 200 Hz) ～ 20.0 kHz の範囲内で 1 Hz ～ 100 Hz 単位で設定します。
- **Band 1-5 Q** : 各バンドの Q 値を 0.1 単位で設定します (バンド 1 ～ 3 の Q 値は 0.5 ～ 9.9、バンド 4 ～ 5 の Q 値は 0.5 ～ 5.0)。これは 2.54 (0.5)、0.29 (5.0)、0.146 (9.9) のバンド幅設定に相当します。
- **Treble Gain** : 選択されたチャンネルの現在の Treble ゲイン値 (エンコーダー 2(T) で変更)。
-12 dB ～ +12 dB の範囲内を 0.5 dB 単位で調整します。
- **Treble Freq** : 高域シェルピング・フィルターのコーナー周波数。3 kHz ～ 10 kHz の範囲内
を 100 Hz 単位で調整します。初期設定 : 6.5 kHz
- **Treble Q** : フィルターの Q 値を 0.5 (広い) ～ 1.5 (狭い) の範囲内で調整します。初期設定 : 0.7
- **Dual EQ** : OFF または ON。初期設定 : OFF。ON に設定すると 5 バンド・パラメトリック EQ
を左右のチャンネルで個別に設定可能になります。
- **B/T Enable** : OFF、ON。初期設定 : ON
- **B/T Load with EQ** : 現在の B/T 設定は常に EQ Preset と共に保存されますが、このオプション
が ON に設定されている場合にのみ読み込まれます (自動的に設定され、アクティブになります)。
その際、ボード線図 (Bode plot) には B/T 設定の効果も表示され、グラフィカル EQ 画面内
での直接的なコントロールのために、Bass および Treble コントロールがバンド BB および BT
として追加され、5 バンドの PEQ が 7 バンドに変わります。
- **Band 1 Type** : Peak、Shelf、High Cut、High Pass (ローカット) から選択できます。すべ
てのフィルターは周波数を 20 Hz ～ 20 kHz、Q 値を 0.5 ～ 9.9 の範囲内で設定できます (カット
/ パス・フィルターのロールオフ特性は 12 dB/oct 固定)。
- **Band 5 Type** : バンド 5 のタイプを Peak、Shelf、High Cut (ハイ・カット) から選択します。
High Cut は周波数を 200 Hz ～ 20 kHz、Q 値を 0.5 ～ 5.0 の範囲内で設定できます (12
dB/oct は固定)。

8.2.3 ADVANCED SETTINGS (詳細設定)

- **Width** : ステレオ・イメージを調整します。1.00 はフル・ステレオ、0.00 はモノラル、-1.00 はチャンネルの反転に相当します。



- **Crossfeed** : OFF、1、2、3、4、5。
ステレオ成分の高音域の広がりを抑えることで、スピーカーの再生音をヘッドフォンでエミュレートする、バウアー方式のステレオ・トゥ・バイノーラル・クロスフィード・エフェクトです。5段階から選択できます。
- **DA Filter** : Short Delay Sharp、Short Delay Slow、Sharp、Slow、SD LD (Short Delay Low Dispersion)、Brickwall、NOS。デジタル / アナログ・コンバーター・チップは、いくつかのオーバーサンプリング・フィルターを提供します。初期設定の Sharp は最も位相歪が少なく、広範囲でリニアな周波数特性を持つフィルターです。Slow は高域周波数帯が小さく落ち込みつつも、より傾きが緩やかなカーブを特徴とします。SD Sharp と SD Slow も同様の特性を持ちますが、いずれも遅延が比較的小さいミニマム・フェーズ・フィルターです。NOS は最も傾きが緩やかなフィルターであるため、他のフィルターよりも高音域に影響を与えますが、最高のインパルス応答を提供します。
- **Mono** : OFF、ON、Left。初期設定 : OFF。Left を選択すると左右チャンネルのモノサム信号 (左右の合計) が左チャンネルから出力されます。
- **Polarity** : 選択したチャンネルの位相を 180 度反転させます。
- **M/S-Proc** : M/S 処理がアクティブになります。モノラル成分 (M) が左チャンネルから、ステレオ成分 (S) が右チャンネルから出力されます。
- **LOUDNESS** : ON または OFF。初期設定 : OFF。

Bass Gain : Bass の最大ゲイン値。+1 dB ~ +10 dB の範囲内を 0.5 dB 単位で調整します。初期設定 : +7 dB。

Treble Gain : Treble の最大ゲイン値。+1 dB ~ +10 dB の範囲内を 0.5 dB 単位で調整します。初期設定 : +7 dB。

Low Vol Ref : Bass/Treble が最大ゲインとなる基準のレベル (dB) を設定します。 -90 dB ~ -20 dB の範囲内で設定可能です (初期設定 : -30 dB)。ボリュームがこの値以下のときは Bass/Treble が最大ゲインになります。この値からボリュームを上げていくと、ゲイン値は徐々に低くなり、Low Vol Ref が +20 dB の値に達するとゲインはゼロになります。

- **Digital DC Protection** : ON、OFF、Filter から選択可。初期設定 : Filter。ON の場合、ソース信号の DC 成分を検出し、高すぎる場合は対応するアナログ出力をミュートします。OFF の場合は DC 保護機能は動作しませんが、DC が検出されると警告メッセージのみが表示されます。Filter は DC と低周波を除去するためのハイパス・フィルターを追加します。

- **De-Emphasis** : Auto、OFF、ON。初期設定 : Auto。必要に応じて DAC のデエンファシス・フィルターのオン / オフを手動で切り替えることができます。
- **Loopback** : OFF、pre FX to 1/2~5/6、post FX to 1/2~5/6、post 1/2~5/6 -6 dB。出力信号を、対応する USB 録音チャンネルにルーティングします。

8.3 PH 1/2、3/4、IEM

これらのページは、以下の項目を除きライン出力ページと同様です。

- **Source** : 初期設定 : Auto。PH3/4 のソースはいつでも自由に変更可能です。選択可能なソース : Auto、AES、SPDIF、Analog、USB 1/2、USB 3/4。ここで言う **Auto** とは、選択中または利用可能な信号を指すだけではなく、チャンネル 1/2 も意味します。
- **Rear TRS 3/4 (ADI-2/4 Pro の PH 3/4 のみ)** : Line 1/2、Phones 3/4。初期設定 : Line 1/2。リア・パネルの TRS 出力のソースを、**Line Out 1/2** から **Phones 3/4** に変更できます。詳細は、ADI-2/4 Pro マニュアル記載のブロック・ダイアグラムをご参照ください。**Phones 3/4** を選択すると、**Phones Out 3/4** の設定は、基準レベル設定などを含めて TRS 出力でも有効になります。したがって、ライン出力で +13 dBu の基準レベルは使用できなくなります。

ADVANCED SETTINGS

☒ Rear TRS 3/4

各ヘッドフォン出力の **Ref Level** は、**IEM** (+1 dBu)、**Lo-Power** (+7 dBu)、**Hi-Power** (+19 dBu) に個別に設定できます。**IEM** では **Ref Level** を選択できません (-3 dBu に固定)。

8.4 DEVICE

8.4.1 DEVICE MODE

- **Basic Mode** : Auto、AD/DA、USB、Preamp、Dig Thru、DAC。
- **Auto Standby** : OFF、30 min、1h、2h、4h から選択可。各出力の信号レベルが -70 dBFS 以下になってから、設定した時間内に信号が検出されない、もしくは本体が操作されなかった場合、スタンバイ・モードが有効になります。
- **DSD Detection** : 初期設定 : ON。SPDIF、AES、USB における DSD 自動検出機能を無効にできます。
- **Dig. Out Source** : Default、Main Out から選択可。**Main Out** を選択すると、**Line Output 1/2** と同じ信号 (EQ とボリューム設定を含む) を、AES または SPDIF/ADAT のデジタル出力からも送信します。デジタル入力を備えるアクティブ・モニターを使用する場合などに便利な機能です。

DEVICE MODE

Basic Mode

Auto

Auto Standby

OFF

DSD Detection

☒ Enable

Dig. Out Source

Default

- **DSD Filter** : DSD Direct モード時に使用できる高周波ノイズ・フィルターです。送出先の機器に悪影響を及ぼす恐れのある可聴帯域外ノイズを抑えることができます。
※一部のデバイスでのみ利用可能です。詳細はデバイスのマニュアルをご参照ください。
- **DSD Direct** : OFF、ON。初期設定 : OFF。ON にすると DSD Direct モードの再生音がリア出力 1/2 から出力されます。DSD Direct モードでは全ての DSP 処理とボリューム・コントロールが無効になります。出力ボリュームを変更したい場合は基準レベルを変更してください。
※一部のデバイスでのみ利用可能です。詳細はデバイスのマニュアルをご参照ください。

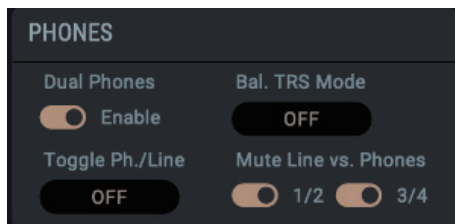
CC モード変更時の注意事項

Stereo および Multi-channel への変更は、本体で直接設定する必要があります (ADI-2 Remote では変更不可)。

ADI-2 シリーズは 2 種類のクラス・コンプライアント・モード (ステレオおよびマルチチャンネル) をサポートします。2 チャンネル・モードは最大 768 kHz のサンプル・レート (iOS 含む) でステレオ信号を扱います。6/8 チャンネル・モードは全ての I/O に同時にアクセス可能です。マルチチャンネル・モードのサンプル・レートは最大 192 kHz に制限されます。モードを変更するには、USB の接続を外す必要があります。

8.4.2 PHONES

- **Dual Phones** : OFF、ON。初期設定 : OFF。ON にするとヘッドフォン出力 PH1/2 が使用可能になります。メイン・ヘッドフォン出力は PH 3/4 です。PH1/2 は 2 台のヘッドフォンやバランス・ヘッドフォンを使用する場合にのみ使用してください。



Dual Phones 設定を ON にし、2 台のヘッド

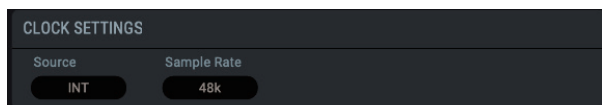
フォンを接続している場合は **VOLUME** ノブを押すことで PH1/2 と PH3/4 のボリュームを個別に調整できます。ノブを押すと PH 1/2、PH 3/4、同時 (マーカーが両方のパラメーターを選択) の順番にマーカーが切り替わり、それぞれのボリューム調整が可能です。**VOLUME** ノブを回すと **Dual Volume** 画面に表示が切り替わります。

- **Bal. TRS Phones Mode** : OFF、ON、Auto から選択可。初期設定 : OFF。バランス・ヘッドフォン・モードでは PH 3/4 から左チャンネル、PH 1/2 から右チャンネルの信号が出力され、バランス・ヘッドフォンを駆動します。Auto を選択すると両ヘッドフォン端子にプラグが挿入されると同時にバランス・ヘッドフォン・モードがアクティブになります。この設定は、4.4 mm 5 極バランス・ヘッドフォン端子では無効です。4.4 mm のバランス端子は、接続すると自動的にバランス・モードが有効になります。

- **Toggle Ph/Line** : OFF、1/2、3/4、1/2+3/4、All Plugged、Line/Digital。初期設定 : OFF。ヘッドフォン出力、リア・パネルのライン出力、デジタル出力を交互にミュートします。**VOLUME** ノブを 0.5 秒押すとミュートが切り替わります。リア・パネルから接続されたスピーカーとフロント・パネルに接続されたヘッドフォンを切り替えてモニターする場合に便利です。**All Plugged** は、プラグ接続が検出されたフォン出力に切り替わります。**Line/Digital** は、アナログのライン出力とデジタル出力間を切り替え、さらに **Phones** とデジタル出力間でも **Mute v. Ph** がアクティブになります。
- **Mute v. PH 1/2** : ON または OFF。初期設定 : ON (グレー・アウト)。PH 1/2 にプラグが接続されると同時にリア出力 1/2 がミュートされます。注意 : この機能を使うには **Dual Phones** が ON である必要があります。この機能を有効にすると、**PH 1/2** と **Line Output 1/2** は別々の設定を持つようになります。同じ信号が出力されている場合でも、各出力の設定 (**Settings**、**EQ**、**Bass/Treble**) は個別の情報として保存されます。
- **Mute v. PH 3/4** : ON または OFF。初期設定 : ON。PH 3/4 にプラグが接続されると同時にリア出力 1/2 がミュートされます。

8.4.3 CLOCK SETTINGS (クロック設定)

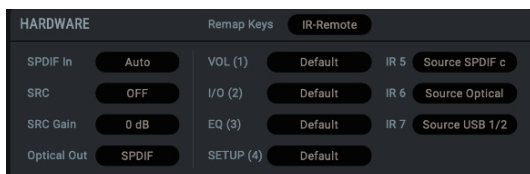
- **Source** : Auto、INT (インターナル)、AES、SPDIF から選択可。DAC モードでは使用できません。
- **Sample Rate** : この設定は、USB に接続していない場合のみ変更できます。USB 接続中は、現在のサンプル・レートの確認にのみ使用できます。44.1、48、88.2、96、176.4、192、352.8、384、705.6、768 kHz から選択可。



8.4.4 HARDWARE

- **SPDIF In** : Auto、Coax、Optical から選択可。初期設定 : Auto。
- **SRC (Sample Rate Converter)** : OFF、AES In、SPDIF In から選択可。初期設定 : SPDIF In。注意 : DoP 信号 (DSD) が検出されると、SRC は自動的に無効になります。
- **SRC Gain** : 0 dB、-3 dB から選択可。初期設定 : 0 dB。SRC はデジタル・ヘッドルームを使用して、最大 +3 dBFS までのサンプル間ピークを歪みなく処理します。-3 dB に設定すると、最大 +3 dBFS の SRC 信号を USB 経由で歪みなく録音したり、**Dig Thru** モードで AES/SPDIF 出力へ通すことが可能です。その場合、0 dBFS の通常の SRC 入力信号はこの 2 つの経路で -3 dBFS のレベルになります。
- **Optical Out** : SPDIF、ADAT から選択可。ADAT 入力信号は自動で検出 / 設定されますが、ADAT 出力は手動で設定する必要があります。**Dig Thru** モードでは、ADAT 入力信号が検出されると、出力フォーマットが自動的に ADAT に変更されます。全 8 チャンネルの ADAT 入力信号をパススルーさせることができます。

- **Remap Keys** : OFF、ON、Remote。初期設定 : Remote。本体のフロント・パネルにある 4 つのファンクション・ボタンと、リモコンにある 7 つのプログラム可能なボタンに対し、64 の機能 / アクションをアサインできます。以下のボタンにアサイン可能です。



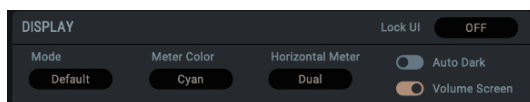
- **VOL ボタン、I/O ボタン、EQ ボタン、SETUP ボタン、IR (リモコン) ボタン 5 ～ 7。** : アサイン可能な機能 / アクション :

Setup 1 ～ 9、Mono 1/2、Mono 3/4、Mono 1/2 to L、Mono 3/4 to L、Mute 1/2、Mute 3/4、Mute all、Loudness 1/2、Loudness 3/4、EQ In 1/2、EQ Out 1/2、EQ Out 3/4、B/T Out 1/2、B/T Out 3/4、EQ+B/T+Ld 1/2、EQ+B/T+Ld 3/4、Toggle Ph/Line、EQ+B/T+Ld 1-4、Polarity、Crossfeed 1-5、DA SD Sharp、DA SD Slow、DA Sharp、DA Slow、DA SD LD、DA Brickwall、DA NOS、Toggle View、DIM、Mono all、Mono all to L、Loudness all、EQ Out all、BT all、AutoDark、EQ Preset 1-9、RIAA Mode +、RIAA Mode -、RIAA Mono B。

また、Source AES、Source SPDIF c、Source Optical、Source Analog、Source USB 1/2 も利用できます。Basic Mode が DAC の場合のみ、本体およびリモコンを介してモニターする入力の切り替えを行うことができます。

8.4.5 DISPLAY (ディスプレイ)

- **Lock UI** : OFF、Remote、Keys、Keys+Remote から選択可。本体キー (Keys)、リモコン (Remote)、または両方 (Keys+Remote) の操作をロックします。VOLUME のみが操作可能になります。解除するには、エンコーダー 1 を長押しします。
- **Mode** : Default、Dark から選択可。Dark を選択すると、ディスプレイ表示が「白背景 / 黒テキスト」から「黒背景 / ライト・グレーのテキスト」に変更されます。
- **Meter Color** : Green (緑色)、Cyan (シアン)、Amber (琥珀)、Monochrome (白黒)、Orange (オレンジ)、Red (赤色)。初期設定 : Cyan。PCM および DSD モードで表示するレベル・メーターの色を選択します。
- **Horizontal Meter** : アナライザー下部にある水平のステレオ・レベル・メーターは、すべての DSP プロセッシングの前段 (Pre-FX : USB プレイバックおよび SPDIF 入力からの入力レベルと同等)、ボリューム・コントロールを含むすべての処理の後段 (Post-FX)、Pre と Post の両方を表示 (Dual : 初期設定) から表示モードを選択できます。外側の細い線は Pre レベルを示します。Dual モードのピーク値は、右が Post レベルを示します。Post FX dBu は、dBu を基準とした数値を示します。



- **AutoDark** : OFF、ON。10 秒間操作が行われなかった場合、**Standby** ボタンを除くすべての LED および画面表示を自動的に消灯します。ボタンやノブを操作すると、LED とディスプレイ画面が一時的に再点灯します。情報 / 警告メッセージは 3 秒間表示されます。
- **Volume Screen** : ON または OFF。初期設定 : ON。**VOLUME** ノブを回すと、**Volume** 画面が表示されます。

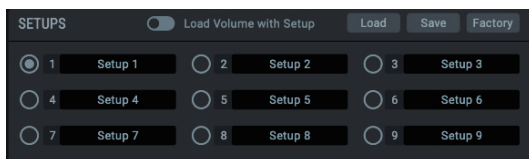
8.4.6 SETUPS

ADI-2 シリーズでは、機器全体の設定を Setup (セッティング) として本体の 9 つのメモリー・スロットに保存できます。この Setup には EQ プリセットが含まれません。それぞれは個別に保存され、自由な組み合わせで読み込むことができます。Setup 保存時点の EQ 設定は Setup データの一部として保存され、次回 Setup 読み込み時に EQ プリセットのスロット **Manual** に読み込まれます。

ADI-2 Remote アプリで保存した Setup ファイルには、それぞれ最大 20 の PEQ プリセットを格納できます。本体で取り扱われる 9 つの Setup は、同じ 20 の PEQ プリセットを共有します。

■ Load Volume with Setup :

ON、OFF から選択可 (デフォルト値 : OFF)。Setup をロードする際に、Setup 内に保存されているボリューム値を読み込むか、読み込まないかを選択できます。オフを選択すると、現在のボリュームは変更されません。



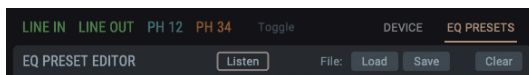
- **Load** : 9 つの Setup のいずれかを本体に読み込むには、**Load** ボタンをクリックした後、目的の Setup を選択します。Setup 名の左にある円がオレンジ色に点灯し、現在アクティブな Setup であることを示します。Setup 読み込み後にいずれかのパラメーターを変更すると、円の色がグレーに変化し、現在の状態が保存された Setup と一致していないことを示します。
- **Save** : 現在の状態を保存するには、**Save** ボタンをクリックした後、目的の Setup ボタンをクリックします。保存が完了すると Setup 名の左にある円がオレンジ色に点灯します。
- **Factory** : Setup を工場出荷時の状態にリセットするには、**Load** をクリックした後、**Factory** をクリックします。各パラメーターが初期設定にリセットされます。10 番目の Setup と考えることもできるこの Factory セットアップはあらゆる設定をリセットしますが、現在の EQ 設定や EQ プリセットのみ現在の値が保持されます。このとき現在アクティブな EQ プリセットの選択のみが変更される場合があります。

8.5 EQ PRESETS (PEQ エディター)

8.5.1 EQ PRESET EDITOR (EQ プリセット・エディター)

- **Listen** : EQ プリセット・エディターを使うと、本体に格納されている 20 の EQ プリセットを編集できます(変更は本体に反映されません)。EQ プリセットの読み込み / 編集 / 保存をオフラインで行うことができます。

Listen ボタンを押すと、現在の EQ プリセットがアクティブな出力に一時的に読み込まれます。

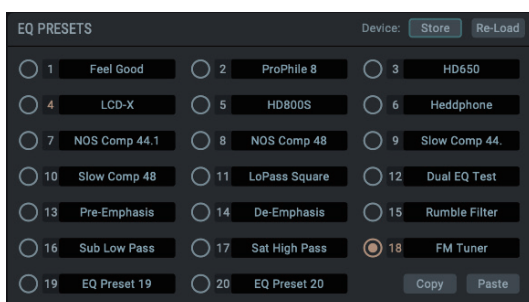


- **File – Load** : Load ボタンをクリックすると、EQ プリセット・ファイル (拡張子 .adieqpr) を選択するダイアログが表示されます。
- **File – Save** : Save ボタンをクリックすると、現在の EQ 設定を EQ プリセット・ファイル (拡張子 .adieqpr) として保存するためのダイアログが表示されます。
- **Clear** : Clear ボタンをクリックすると、現在の EQ 設定がフラットな周波数レスポンスにリセットされます。本体の Clear プリセットと同様の機能です。

8.5.2 EQ PRESETS (EQ プリセット)

- **Device - Store** : Store をクリックすると、現在の EQ 設定が本体の該当するプリセット番号スロットに保存されます。

- **Device - Re-Load** : Re-Load ボタンを押すと、本体に保存されている任意の EQ プリセットを、EQ プリセット・エディターに簡単に読み込むことができます。これは、EQ プリセット・エディターで行われ、まだ本体に転送されていない変更を元に戻すのにも役立ちます。



- **EQ プリセットのステータス** : 20 の EQ プリセットのいずれかを選択すると、プリセット名の左にある円が白からオレンジ色に変化し、選択中であることを示します。いずれかのパラメーターを変更すると、プリセット番号の色が白からオレンジ色に変化し、保存され EQ プリセットとパラメーターが一致しないことを示します。次に別の EQ プリセットを選択すると、それまで選択していたプリセットの番号はオレンジ色に点灯したままとなります。

アプリを終了すると、変更を保存するか、または破棄するかを選択するダイアログが表示されます。

■ **Copy / Paste** : 本体には EQ プリセットの順番を簡単に入れ替えられる機能がありますが、本マニュアル執筆時点の ADI-2 Remote アプリでプリセットの順番を入れ替えるには、コピー&ペースト機能を用いる必要があります。

- ・ 任意の EQ プリセット (例 : 1) を選択し、**Copy** をクリックします。
- ・ 他の任意の EQ プリセット (例 : 2) を選択し、**Paste** をクリックします。EQ Preset 1 の EQ 設定が、プリセット名も含めて EQ Preset 2 にコピーされます。
- ・ EQ プリセットを入れ替える、または順番を変更するには : EQ プリセット (1) を空のプリセット (18 番など) にコピーし、プリセット 2 を 1 にコピーし、その後で 18 を 2 にコピーします。これで EQ Preset 1 と 2 が入れ替わりました。

9. 追補

RME ニュース、最新版ドライバー、製品に関する詳しい情報は弊社ウェブサイトに記載されています：<https://rme-audio.jp/>

供給

Audio AG, Am Pfanderling 60, D-85778 Haimhausen, Tel.:(49) 08133 / 918170

商標

全ての商標および登録商標はそれぞれの所有者のものです。RME、DIGICheck、Hammerfall は、RME Intelligent Audio Solutions 社の登録商標です。SyncCheck、SyncAlign、TMS、TotalMix、SteadyClock、ADI-2/4 Pro SE、Extreme Power は RME Intelligent Audio Solutions 社の商標です。Alesis および ADAT は Alesis 社の登録商標です。ADAT optical は Alesis 社の商標です。Microsoft、Windows 7 / 8 / 10 / 11 は、Microsoft 社の登録商標または商標です。Apple、iPhone、iPad、iOS、macOS は、Apple 社の登録商標です。ASIO は Steinberg Media Technologies GmbH 社の登録商標です。

Copyright © Matthias Carstens, 07/2026. Version 2.2

現在のアプリ・バージョン 2.2

第 6 章クイック・ガイド作成：Sebastian Free. Synthax UK の許可を得て掲載。

本ユーザーガイドの内容に誤りがないよう十分に校閲し、万全を期しておりますが、RME は誤りがまったくないことを保証いたしません。万一、本書に誤解を招くような、もしくは誤った情報があった場合でも、RME はその責任を負いかねます。RME Intelli-gent Audio Solutions の書面による許可なしに本書の一部でも貸与、複製、あるいは商業目的で使用することは禁止されております。RME はいつでも予告なく仕様を変更する権利を有します。

日本語ユーザーガイドについて

1. 本ユーザーガイドの著作権はすべて本製品の製造元および株式会社シンタックスジャパンに帰属します。
2. 本ユーザーガイドの内容の一部、または全部を株式会社シンタックスジャパンの書面による承諾なしに複写・転載、複製、送信、情報検索のために保存すること、および他の言語に翻訳することを禁じます。
3. 本ユーザーガイドに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。
4. 本ユーザーガイドは、本製品の使用許諾契約書のもとでのみ使用することができます。
5. 本ユーザーガイドを使用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
6. 本ユーザーガイドに記載されている会社名、製品名は、各社の商標および登録商標です。